

# 「しんのすけPRESS」

— 福岡市議会議員 阿部 真之助 議員活動レポート —

## 「ロープウエーの導入」について反対の立場を表明する

福岡市におけるウォーターフロント地区(以下WF地区)というのは、博多湾に面する中央ふ頭・博多ふ頭を含む、国際会議場・マリンメッセ・博多港国際ターミナル・博多ふ頭旅客ターミナルが存在する約65haの地区である。

2016年(平成28年)3月に策定されたWF地区再整備構想においては、福岡都心部の国際競争力を強化し、九州・西日本の発展に貢献すべくMICEやクルーズなどの需要の増加に対して都市機能の供給力の向上を目指して、海辺を活かした賑わいの創出と憩いの空間形成をしていくものであると定義されている。その目標年次として概ね20~30年後を想定している。

第1ステージとしては、今後の概ね10年間でMICE・ゲートウェイ機能の強化と合わせ賑わい等を創出するものとし、第2ステージとしては、その後の概ね20年間でMICE・クルーズの需要動向や埋め立て時期等を踏まえ事業化していくと定義している。

その中で生じてくると予想される課題のひとつに、交通アクセスの問題がある。例えば、集客施設におけるイベント時を中心とした、自動車・臨時バス・タクシーなどの輻輳による交通混雑、イベント交通・物流交通・一般通過交通などによる東西方向の断面容量の不足、福岡都心部の他の拠点との公共交通アクセスの不足が挙げられる。

そこで浮上したのが、今年の福岡市長選挙において現市長が公約で掲げた博多駅とWF地区を結ぶ大博通りへの「ロープウエーの導入」である。

まず、先述したように、2016年からの概ね10年間に於いて、MICE・ゲートウェイ機能の強化と合わせ、海辺を活かした賑わい等を創出するという第1ステージの進捗状況を精査せずに、交通アクセス体系の見直しを検討することは性急すぎると考えます。まず、福岡市がやるべきことは、昨年導入した循環型BRT(連接バス)による福岡都心部における交通混雑の解消度合いの検証と、更なる交通混雑の解消に向けたプリンジパーク(福岡都心部周辺の駐車場)の整備促進ではないかと考えます。なぜならば、国から約9億円、福岡市から約3億円、西日本鉄道株式会社負担分が約6億円、総事業費約18億円をかけて導入した事業の費用対効果も有耶無耶になってしまう可能性があるからです。

今、我々福岡市民は、様々な事業に関して投入される税金が、如何なる形で市民生活に還元されているか、その費用対効果が十二分に検証されているか、また、理路整然とした手続きを踏んだ上で、最終的に市民が納得できる事業が実施されているかを考えなければなりません。

確かに、私自身も選挙時の公約実現に邁進するのは、政治家として大切だと考えますが、選挙時の公約に掲げていたからといって、福岡市民の代弁者である議会への説明や手続きに瑕疵や不手際が絶対にあってはならないし、議会軽視だと謗られても仕方がないことであると考えます。

最後に、現段階で「ロープウエーの導入」に関して議論することは、性急かつナンセンスであり、「ロープウエーの導入」には明確に反対致します。